

パプリカの栽培技術の確立

第3報 着果開始節位の違いが生育・収量に及ぼす影響

深田直彦・黒木利美・富永 寛
(宮崎県総合農業試験場)

Naohiko Fukada, Toshimi Kurogi and Hiroshi Tominaga : Establishment of cultivation technique on paprika

3. Effect of difference of node order which starts fructification on growth and yield Establishment of Cultivation Technique on Paprika

前報までに、促成パプリカ栽培における栽植密度および側枝の着果数制御について報告した。本報では、着果開始節位の違いが生育・収量に及ぼす影響について述べる。

1. 材料および方法

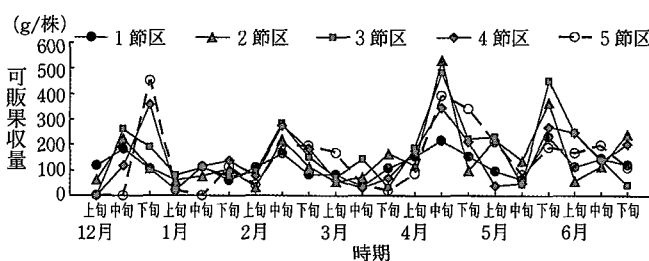
供試品種は‘スピリット’を用いた。試験区は、主枝2本仕立てで各節着果を共通の条件とし、着果の開始節位を変えることで設けた。すなわち、第1分枝節から着果させる1節区、第2分枝節から着果させる2節区、第3分枝節から着果させる3節区、第4分枝節から着果させる4節区、第5分枝節から着果させる5節区を設けた。試験はロックウールを培地とする養液栽培で行った。培養液はS社製養液栽培肥料の第2処方、育苗期はEC1.0~1.5、定植後はEC2.0~2.5の濃度で管理した。播種は2001年8月21日に行い、9月28日に定植した。畦幅は180cm、株間は20cmとした。主枝はU字型に斜め誘引を行い、側枝は2節で摘心して、収穫の終えた側枝は1節残して切り返した。最低温度は17℃設定で管理した。培地加温は実施しなかった。収穫は12月6日から2002年6月29日まで行った。

2. 結果および考察

生育：収穫開始2週間後の主枝の状態は、着果開始節位が低い区ほど、節数が少なく主枝長が短く、茎径が小さくなる傾向があった。その後、特に1節区は生育が遅れ、心止まり気味になる主枝もあり、主枝の摘心時期も遅れた。1節区以外の区は、栽培が進むにつれて生育に大きな違いはなくなった(第1表)。

収量：収穫開始は着果節位が低い区ほど早かったが、年内の収量には有意な差は認めなかった。株当たりの収量は、1節区が他の区に比べて収穫果数が少なく減収した。また、1節区は可販果率も低かったため、可販果収量で比較すると他の区よりも20~40%程度減収を示した(第2表)。一方、時期別収量は、収穫開始時期の違いはあったものの、いずれの区も収量の山谷は似たような推移を示した(第1図)。

以上の結果、促成パプリカの主枝2本仕立て栽培における着果の開始節位は、第2~3分枝節から着果させるのがよいと考えられた。



第1図 時期別の収量 (可販果)

第1表 主枝の状態

区名	収穫開始2週間後				平均主枝摘心日	栽培終了時					
	主枝の状態					主枝の状態					
	長さ (cm)	節数	節間長 (cm)	茎径 ^a (mm)	主幹長 (cm)	長さ (cm)	節数	節間長 (cm)	茎径 ^a (mm)	莖葉重 (g)	
1節区	82.8	13.5	6.1	6.3 a	4月15日	27.0	165.7	28.3	5.9	8.9 a	630.7
2節区	87.7	14.1	6.2	6.6 ac	4月5日	27.3	166.2	29.3	5.7	9.5 ab	682.5
3節区	87.0	14.3	6.1	6.8 acd	3月31日	27.3	166.5	29.5	5.7	9.5 ab	727.5
4節区	92.1	14.7	6.3	7.3 bc	4月11日	27.3	169.5	29.4	5.8	9.8 b	682.5
5節区	93.0	14.9	6.2	7.6 bd	4月3日	26.7	168.1	29.8	5.7	10.0 b	713.0

注) a) z: 主枝の5~6節間, y: 主枝が誘引線の上端部に到達した時点。

b) アルファベットの異なる文字間には Bonferroni の多重比較により5%水準で有意差がある。

第2表 収量と着果数

区名	着果数	年内総収量			総収量			可販果収量				
		果数	重量 (g)	一果重 (g)	果数	重量 (g)	比	果数	重量 (g)	比	一果重 (g)	可販果率 (%)
1節区	26	2.6	409 a	157	21	2,858 a	100.0	17	2,489 a	100.0	146	87.7
2節区	27	2.5	396 a	158	24	3,358 ab	117.5	22	3,186 b	128.0	145	94.9
3節区	34	2.8	453 a	162	28	3,808 b	133.2	25	3,539 b	142.2	144	93.1
4節区	29	3.1	499 a	161	25	3,405 ab	119.1	22	3,127 b	125.6	143	92.2
5節区	29	2.8	453 a	162	25	3,343 ab	117.0	21	3,025 ab	121.6	147	90.3

注) a) z: 12月6日から12月31日まで。

b) アルファベットの異なる文字間には Bonferroni の多重比較により5%水準で有意差がある。